

【ユーザープロフィール】

全国の主要空港等 10ヶ所に事業所・営業所を持ち、(1)定期便・小型機・ヘリコプターへの給油作業、(2)石油製品の販売、(3)プライベート機等の運航支援、(4)航空機器製品の販売などの事業を展開。800MHz帯デジタルMCA無線(mcAccess e)は平成20年7月に導入し、羽田空港、関西国際空港、中部国際空港でご利用いただいております。

マイナミ空港サービス株式会社様は、東日本大震災において、災害支援活動にMCA無線を活用されましたので、執行役員販売部部長 吉田寿様にお話を伺いました。



航空機への給油作業風景 (平常時)

■ 災害支援活動の概要について教えてください

「平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、総務省消防庁、経済産業省などから航空機燃料緊急搬送の依頼を受け、東京から東北地方に燃料搬送を行いました。」

「東京のタンクローリー3台では足りないため、大阪と福岡のグループ会社からの協力を得て、20キロローリー6台による支援活動を4月中旬まで行いました。」

また、大きなタンクローリーが入れない場所には、ドラム缶で燃料を搬送しなければなりません。特に消防庁防災ヘリや医療機関ドクターヘリが使うヘリポートは山間部などにあることが多く、ドラム缶燃料の需要が多数あったため、これについては5月中旬まで行いました。」

「東日本大震災のように、自分達の営業所のエリア外で災害が発生し支援依頼が来た場合、どのように対応するべきかというのは大きな課題です。幸い、燃料の出荷体制は確立されていたので、今回のタンクローリーの要請から手配、ドラム缶の搬送など、お客様のリクエストはひとつも断らず、すべて応えられたことは非常に良かったと思っています。」

■ MCA無線はどのように活用されましたか

「発災後は、電話がまったく通じませんでしたが、燃料在庫の把握などができない状態では災害支援を行うことができません。そこで、追加のMCA無線8台を借用して、主に運行情報管理用として使用することにしました。」

MCA無線機を、東京の本社に指令局1台、タンクローリーに6台、花巻空港に1台配置し、本社において24時間、運転手のスケジュール管理、道路交通事情の把握、燃料受け入れ先の状況など全ての情報を管理し、災害地域へ派遣する社員へ常に最新の情報を提供しました。」



「羽田空港と東京ヘリポートの燃料出荷基地で燃料を受入れてから、東北地方の搬送の拠点となった岩手県花巻空港に到着するまで、高速道路でも片道8時間ほどかかります。」

比較的復旧の早かった高速道路も道路事情がかなり悪く、また通行できない道や原発の影響の状況がなかなか分かりませんが、MCA無線でドライバーが本社に迂回路などの情報を問い合わせできたため、迅速、かつ安全に運行ができました。」

「通信状況は、東京ヘリポートと羽田空港の間や高速道路の各中継地点といった重要ポイントでも良好でした。広い範囲でおきた災害でしたが、MCA無線はサービスエリアが広く、非常に役に立ったと思います。」

■ 今後の展開についてのお考えは

「MCA無線は現在、事業所のある羽田、関西、中部の各空港での給油業務に使用していますが、災害はどこでおきるかわかりません。今回の花巻空港と当社との関係のように、他の空港も加えてMCA無線での情報交換ができれば、新しい形でBCP(Business continuity plan: 事業継続計画)が策定できるのではないかと考えています。」

また、成田空港でもMCA無線のサービスエリアが拡大されれば、当社のBCPの観点からも、さらにMCA無線が活用できるのではないかと考えています。」

「空港は365日、休みなく動いています。毎月、各事業所では災害地震、雷雨、台風、事故など、さまざまな災害リスクを想定して訓練を実施しています。関東や関西で地震が起きた場合に燃料はどこから調達するのか、など対応すべき項目は様々です。また、抜き打ちで訓練が実施されることもあります。」

これらの訓練で、本社は今まで各事業所の実施報告を受けるだけでしたが、今回の災害支援活動を経験して、本社と各事業所間でも災害時通信訓練が必要ではないかと考えています。電話・FAXに加えてMCA無線も活用していきたいと考えています。」